

社会課題 見本例

☆下の見本例は、教科書と照らし合わせながら参考にしてください。

歴史の教科書P48～49を見本に紹介します。

「+α」は、より良い・深い学習にしたい！という内容のものになっています。

「+α」を取り入れて、自分だけの学習課題をノートに仕上げてみよう！

学習課題

平安京は、どのようなむらいでつくれた？どのような政治が行われたのだろう。

3 平安京

平安の都

奈良時代には、中臣鎌足の子孫である藤原氏が力をつけ、ほかの貴族たちと争いをくり返しました。また、寺院の僧侶が天皇の政治に口出しすることもありました。そこで桓武天皇は、朝廷を一つにまとめるため、寺院を奈良に残したまま、都を京成国(京都府)の長岡城(秋田城)に移しました。さらに794年には平安京を都とし、その名の通りに平和で安定した社会をめざしました。これ以後、鎌倉幕府ができるまでの約400年間を平安時代といいます。平安京はやがて京都とよばれ、日本の首都として長く続きました。

桓武天皇は、律令に基づく政治を立て直すため、全国各地をおさめる国司の不正をきびしくとりしました。また、税や労役を軽くしたり、班田収授に力を入れたりするなど、人々の暮らしにも気を配りました。

また、このころ朝廷は東北地方の支配をさらに進めました。奈良時代には多賀城(宮城県)や秋田城(秋田県)において、蝦夷とよばれる人々をおさめていましたが、蝦夷たちはしばしばこれに反抗しました。

東北地方に住む、言葉や習慣などが異なり、律令国家に足りなかった人々のことを蝦夷とよみました。

48 第2編 古代までの日本

step1：見本の赤マーク・赤アンダーラインが引かれているところ。
[+α：青のマーク]

step2：重要語句を簡潔に説明

→step1を利用して文章を作成。
[+α：アンダーラインを引いてない本文や資料を参考につくる]

例 • 桓武天皇…朝廷をまとめるために、寺院を奈良に残したまま、都を京都の平安京に移した天皇

[+α：坂上田村麻呂を征夷大将軍に任命し、東北地方の支配を進める]

[+α：律令政治を立て直すために、班田収授や税・労役を軽くした]

• 平安京…794年に長岡京から移された都

[+α：縦横に区切られ整備された都で、唐の長安がモデル]

[+α：西の桂川、東の鴨川にはさまれている。朱雀大路に現在は電車が通っている]

• 平安時代…794年～鎌倉幕府ができるまでの約400年間の時代

④ 平等院鳳凰堂の阿弥陀如来像 (高さ2.8m)

ふくよかな身体にわだやかな表情をしたこの如来像は、のちの仏像の模範になりました。国宝 世界遺産

⑤ 空海 (774~835)

(和歌山県 高野山 金剛峯寺蔵)

特に空海のもたらした、秘密の教えや法などを重視する密教の教えは、皇族や貴族たちの心をとらえ、広まりました。

日本では1052年から末法の世になると考えられていました。ちょうどこのころに人を屠つけたり殺したりすることのある武士(→P52)が勢力をのぼし、また人を救うことが任務であった僧が武器を持ってついで起き起こすなど(→P62)。末法になったと感覚せるでありますとかくさんおこえました。

学習の確認と活用

確認 桓武天皇の改革を簡単書きで整理しよう。

活用 それぞれの時代で支配を強めるために何をしたのか、飛鳥時代、奈良時代、平安時代の桓武天皇の政治に分けてまとめてみよう。

- ・最澄…伝教大師。唐で仏教を学んだあと、比叡山に延暦寺を建て、天台宗を広める。
- ・空海…弘法大師。唐で仏教を学んだあと、高野山に金剛峰寺を建て、真言宗を広める。
- ・淨土信仰…皇族や貴族で盛んになった、念佛を唱えて極楽浄土の世界に生まれ変わるのを祈る信仰
 - [+ α : 世の中が乱れるという末法思想が広まったことが理由]
 - [+ α : 代表作に平等院鳳凰堂の阿弥陀如来像]

step3 : 学習の確認と活用の部分

⇒人物や地名・重要語句を使う。step1 や 2 を利用してつくる。

例

【確認】桓武天皇の改革

- ・都を京都の平安京に移す
- ・税や労役を軽くする
- ・東北地方の支配を進める
- ・国司の不正をとりしまる
- ・班田収授に力を入れる

【活用】各時代の支配の強め方

参考

飛鳥P36~39, 奈良P40~47

- ・飛鳥時代…聖徳太子が冠位十二階や十七条の憲法を通して、天皇を中心とする国家づくり大化の革新を通して、全国の土地・人民を國のものにする公地公民を天智天皇が示す701年に大宝律令を定め、律令に基づいて政治が行われる

- ・奈良時代…中央の朝廷には、二官八省の役所を置き、地方には国司・郡司を派遣・任命する九州には大宰府を置き、唐や新羅との外交や防衛を任せり律令に基づいて戸籍を作り、人民の把握をする6歳以上に口分田を与える、死後は國に返す班田収授を行い、租庸調といった税をとる聖武天皇の時代に、仏教は國を守る力があるとして、國ごとに國分寺を建てる

- ・桓武天皇…奈良時代に権力を持った寺院を奈良に残して、都を京都に移す律令政治を立て直すために、国司の不正をとりしまり、税や労役を軽くする坂上田村麻呂を征夷大將軍として大軍を送り、朝廷の支配を東北地方まで広げる